

老齢動物の病気について

前号でMR（犬の僧帽弁閉鎖不全症）ステージ分類（進行度合い）についてお話ししました。このステージ分類は獣医師の間で**共通認識**となっており**ステージごとに推奨**される治療がACVIM（全米獣医内科学会）によって提示されています。

2.MRの症状が出ている場合

MRが原因と思われる**症状がすでに出ている場合**、ステージはStageB2以上となります。なるべく早く動物病院を受診することをお勧めします。まずは諸検査をして「**その症状は本当にMRによるものなのか？**」という原点からの診断をしていくことになります。

それでは、今号からMRの診断を進めるために**重要な検査と得られるデータと治療に対しての考え方**

ついて説明していきます。

MRはその名の通り僧帽弁の閉鎖不全によって起こる病気です。よってMRと診断するためには「**閉鎖不全**」を証明することから始まります。先にお話ししたように閉鎖不全が起こると血液の流れに乱れが生じ「**逆流性雑音**」が生じます。ただ心雑音にもいろいろありこの雑音が僧帽弁の逆流であると言い切るには、また初期の微妙な音を聞き取るには経験が必要です。この「**血液の逆流**」を客観的に、しかも映像として捉えることができるのが「**心エコー検査**」です。

心エコー検査は**非侵襲性**の検査であり、心疾患を評価するのに重要な検査です。動物では場合により毛を刈る必要がありますが、おとなしく横になってくれれば、鎮静麻酔なども必要なく動物に苦痛を与えることはありません。エコー検査についての詳しい説明

② 犬の僧帽弁閉鎖不全症

4.MRと診断された時、飼い主は何をすべきか？
～症状が出ている場合、MRの診断方法～

文・写真 **中西章男**
text & photo by Akio Nakanishi



は割愛しますが、プローブと呼ばれる超音波を発信し反射波を受信する部分を動物の身体に当てて検査します。本体はこの情報を画像としてモニターに表示します。モードによっては時間ごとのある部分の動きを表示したり、血液の速度を測ったり、動きにカラーを乗せて色で血流を表すこともできます。また、心臓各部の動きをコマ送りにして観察することも可能です。**MRにおける注目点**としては、各弁領域に**逆流**があるか否かとその**流速と波形**、**各弁の形態と動き**、各心室への**流入流出血流速度**、大動脈と左心房の**大きさの比**

較、心臓の拡張期と収縮期の**内容積の差**などさまざまなデータがありますが、**臨床症状を踏まえ**、検査値を総合的に判断することが大切です。次にお話しするその他の検査データと共に**ステージ分類**をして、**今必要な治療は何か？**を考えていくことになります。

体調が悪いとまず一般的に行われるのが**血液検査**と**レントゲン検査**でしょう。次号ではこの二つの検査の、MR診断における立ち位置をお話ししていきます。



Profile

獣医師・獣医学博士。1959年生。1986年日本獣医畜産大学（現日本獣医生命科学大学）大学院博士課程卒。大学ではフィラリア症の血行動態、腫瘍および外科の免疫について研究。1987年東京都杉並区で「阿佐谷ペットクリニック」を開院。小動物の総合診療医として犬猫のみならずウサギ、小鳥、ハムスター、モルモットなど数々の動物を診療してきた。趣味：ゴルフ、モータースポーツ、機械いじり、動物たちとの戯れ。著書：『車イスに乗ったチロ』集英社